



1 子供のやる気を高め、基礎学力を向上させる環境整備

現状と課題

日本の公的教育費割合は、OECD加盟28ヶ国で最下位です。
 全国学力・学習状況調査や国際的な学力調査では、子どもたちの教育は、知識や技能の定着に一定の成果が認められるものの、それらを活用する力や学習意欲、学習習慣、生活習慣に課題があるなどの指摘があります。
 また、適正な競争の復活や絶対評価から相対評価への再転換などの取り組みも大切です。
 このような子どもの状況を踏まえた、学力向上対策や学習環境の充実に取り組み、「確かな学力」を確立することが重要です。

●教科に関する調査の状況

①県の平均正答率の95%信頼区間の状況

		国語				算数・数学			
		知識 A		活用 B		知識 A		活用 B	
		平均正答数(問)	平均正答率の95%信頼区間(%)	平均正答数(問)	平均正答率の95%信頼区間(%)	平均正答数(問)	平均正答率の95%信頼区間(%)	平均正答数(問)	平均正答率の95%信頼区間(%)
小学校 6年生	本県	12.5/15	82.8～84.1	7.8/10	77.0～78.8	14.0/19	72.9～74.8	5.8/12	47.8～49.6
	全国	12.5/15	83.2～83.5	7.8/10	77.7～78.0	14.1/19	74.0～74.4	5.9/12	49.1～49.5
中学 3年生	本県	26.2/35	74.2～75.3	6.5/10	63.9～65.4	24.1/36	66.1～68.0	6.3/14	43.6～45.8
	全国	26.3/35	75.0～75.2	6.5/10	65.1～65.5	23.3/36	64.4～64.8	6.1/14	43.1～43.5

②全国の状況を基準とした本県の状況

- 本県児童生徒の学力は、小・中学校とも全国の公立学校と比較し、概ね統計上の差は見られない。
- ・小学校国語：「知識 A」「活用 B」ともに全国と有意な差は見られない。
- ・小学校算数：「知識 A」「活用 B」ともに全国と有意な差は見られない。
- ・中学校国語：「知識 A」「活用 B」ともに全国と有意な差は見られない。
- ・中学校数学：「知識 A」「活用 B」ともに全国を有意に上回る。
- 昨年度までと同様に、本県を含め全国的に「活用 B」に課題があり、記述式問題に正答率の低い問題がある。

政策

- 発達段階に応じた学級編成への支援
- 学習意欲を高める授業づくりの推進
- 学力、志力の基礎となる健康、体力の向上
- 毎朝10分間学習タイムの推進
- 文章を的確に読む力、考えをまとめる伝える力など国語力の推進
- 小中一貫教育の推進
- 実践英語教育の推進教師による好奇心を示す授業の実施（教師間研究による授業風景ビデオによる教え方研究）
- 特別支援学校の一層の推進
- 通学区域の検討による適度な競争と選択肢の拡大
- 新学習指導要領に対応した学力調査の実施と活用（教師間研究による授業風景ビデオによる教え方研究）

●OECD生徒の学習到達度調査（PISA2009）の主な結果

【調査概要】

- ①義務教育修了段階の15歳児（高校1年生）を対象
- ②知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題に、どの程度活用できるかを評価
- ③2009年調査には、65カ国・地域（OECD加盟34カ国、非加盟31カ国・地域）から、約47万人の15歳児が参加
- ④わが国では対象生徒約117万人のうち、185校、約6千人が参加した。（平成21年6、7月に実施）

【分野別の結果】

	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
国際的な位置づけ	上位グループ 8位/65カ国 順位の範囲5～9位	OECD平均より高得点 9位/65カ国 順位の範囲8～12位	上位グループ 5位/65カ国 順位の範囲4～6位
	OECD加盟國中	5位/34カ国 順位の範囲3～6位	4位/34カ国 順位の範囲3～6位

2 兵庫版副読本の活用による 道徳教育の充実

現状と課題

社会のモラル低下や都市化の進展に伴う地域教育力の低下などが、子どもたちの豊かな心の育成に影を落としています。

学校・家庭・地域が連携して、人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念、公共の精神、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度など、子どもたちに人生や新しい社会を切り拓く基盤となる力を育成することが求められています。

人間形成の基盤となる道徳性など「豊かな心」を育成する道徳教育の充実が重要です。

政策

- 副読本を活用し、学校・家庭・地域が連携した道徳教育を推進
- 教員に対する副読本を活用した道徳授業の実践研修と体系的な道徳教育の実施
- 「男らしさ」「女らしさ」を正しく認識する実質的平等の観点に立った男女共同参画への指導徹底
- 道徳教育推進協議会の設置による進捗状況の評価と検討



▲道徳授業

●暴力行為の学校内外の発生状況（平成21年度文部科学省調査）

(1) 学校内

学校種	全国				兵庫県			
	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発件数	前年度比	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発件数	前年度比
全体	8,169	22.7%	51,070	1.01	410	30.8%	3,307	0.97
小学校	1,670	7.6%	6,532	1.11	97	12.0%	665	1.01
中学校	4,329	43.0%	38,296	1.01	184	51.8%	2,302	0.95
高等学校	2,170	56.1%	6,242	0.95	129	77.2%	340	1.10

(2) 学校外

学校種	全国				兵庫県			
	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発件数	前年度比	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発件数	前年度比
全体	3,150	8.8%	5,657	1.14	185	13.9%	326	0.93
小学校	382	1.7%	511	1.05	34	4.2%	50	0.71
中学校	2,099	20.8%	4,282	1.21	113	31.8%	224	1.09
高等学校	669	17.3%	864	0.94	38	22.8%	52	0.70



3 教員の資質を高め、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

現状と課題

子どもが抱える問題や保護者の学校に対する要望が多様化しています。校長のリーダーシップのもと、迅速かつ組織的に対応することや、保護者や地域住民等へ積極的に情報公開し、学校と家庭、地域との信頼関係を確立することが重要です。

教職員は、子どもにかかわる新たな教育課題等に適切に対応し、自信をもって子どもたちと向き合うことが求められています。また、教職員の心身の健康保持や子どもとの時間の確保につながる勤務時間の適正化も大切になっています。

実践的な研修等を通じて教職員一人ひとりの資質向上に取り組むとともに、団塊の世代の退職に伴い、増加が見込まれる新規採用教職員の研修を充実し、実践力を向上させることが重要です。



▲開かれた学校づくり



▲学校業務改善



▲県立千種高校で行われた連携型中高一貫教育の合同授業

政策

- 地域 3 世代交流学习の充実
- 地域の人材、資源の積極的活用による学校活性化の推進
- 学校長の権限強化
- オープンスクールなどの充実拡大
- 教職員の元気な心づくり対策事業の推進
- 兵庫型教科担任制の推進
- スーパーティーチャー派遣など小中学校の支援
- いきいき学校応援団などによる学校支援の促進

●教職員の勤務状況 (平成 20 年度実施兵庫県「教職員の勤務実態調査」より)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
教諭・主幹教諭の勤務日 1 日あたりの残業時間	1 時間 58 分	2 時間 33 分	1 時間 45 分	1 時間 15 分
(全国平均)	(1 時間 40 分)	(2 時間 13 分)	(1 時間 45 分)	
「大変忙しい」又は「忙しい」と感じている教職員の割合	97.7%	94.6%	91.4%	89.7%

●教職員の勤務時間の適正化を検討するための
教職員勤務実態調査 (書類調査) 結果 (平成 20 年 6 月) ※神戸市立学校は除く

職 種	小学校			中学校			高等学校			特別支援学校 兵庫県
	兵庫県	全国	差	兵庫県	全国	差	兵庫県	全国	差	
校長	2:24	1:40	0:44	2:21	1:46	0:35	1:44	1:35	0:09	1:47
教頭	3:09	2:57	0:12	3:38	3:10	0:28	2:19	2:38	- 0:10	3:14
主幹教諭・教諭	1:58	1:40	0:18	2:33	2:13	0:20	1:45	1:45	0:00	1:15
常勤講師	1:45	1:37	0:08	2:26	2:17	0:09	1:36	1:48	- 0:12	1:22
養護教諭	1:16	0:58	0:18	1:37	1:21	0:16	1:07	0:58	0:09	0:36
事務職員	0:55			1:12			0:56			1:14

4 豊かな芸術文化にふれる教育や体験から学ぶ教育の推進



現状と課題

子どもたちの豊かな人間性、社会性、自律性などを育む必要があります。そのためには、道徳観や正義感を形成する自然体験教育や社会体験教育などが求められています。

子どもたちが「命の大切さ」や「生きる喜び」を実感する野外教育、環境学習、芸術文化にふれる教育などの兵庫型「体験教育」を体系的に実施するとともに、その成果を日常の教育活動に生かしていくことが重要です。

政策

- わくわくオーケストラ、わくわくステージ、県民芸術劇場など芸術体験の機会充実
- 伝統文化の体験と継承、地域の歴史教育の推進
- 環境体験学習、自然学校の推進
- 震災の教訓を生かした防災教育の推進
- 食育の推進



▲ 伝統文化の継承教育



▲ 防災訓練

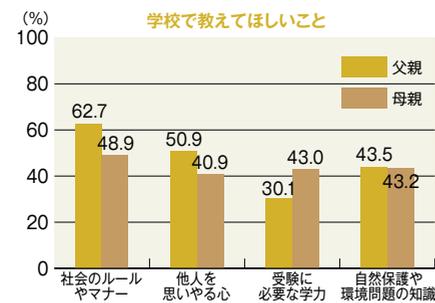
職場体験・就業体験の効果	小学校		中学校		高等学校	
	校数	割合	校数	割合	校数	割合
思いやりのある心を育てる	62校	27.0%	126校	54.8%	90校	38.4%
自然を愛する心を育てる	48校	20.9%	47校	20.4%	36校	15.3%
規範意識を育てる	58校	25.2%	141校	61.3%	137校	58.3%
基本的な生活習慣を身につける	43校	18.7%	139校	60.4%	133校	56.6%
コミュニケーション能力を育てる	85校	37.0%	206校	89.6%	190校	80.9%
意思決定力を育てる	37校	16.1%	95校	41.3%	55校	23.4%
自己学習力（課題解決能力）を育てる	45校	19.6%	102校	44.3%	91校	38.7%

(全国都道府県教育長協議会研究報告・平成19年3月)

● 「子どもの現状から見る課題※」と「今までの兵庫型『体験教育』」における取組結果」の対応

※中央教育審議会 H19.1

● 6割の保護者が社会のルールやマナーの指導を学校に期待している。



● 今までの兵庫型「体験教育」では…

9割以上の中学生が「トライやる・ウィーク」により、社会のルールやマナーの大切さを理解するようになっている。

社会のルールやマナーがわかった

